



アラームの設定

Cisco Unified CallManager Serviceability のアラームでは、管理者がアラームやイベントの設定とアラーム メッセージの定義を行えるので、システム管理者やサポート担当者が Cisco Unified CallManager の問題をトラブルシューティングするのに役立ちます。システム管理者は、アラームとトレースのパラメータを設定して、この情報をシスコ TAC のエンジニアに提供します。

管理者はアラームを使用すれば、システムの実行時の状況と状態を表示して、問題を解決する修正処置をとることができます。たとえば、電話機が登録済みで機能しているかどうか判別できます。アラームには、説明や推奨の対処法などの情報があります。また、アラームの情報には、アプリケーション名、マシン名、およびクラスタ名が含まれているため、ローカル以外で起こった Cisco Unified CallManager の問題をトラブルシューティングするときに役立ちます。

クラスタ内の Cisco Unified CallManager サーバ、および各サーバ用のサービス (Cisco Unified CallManager、Cisco TFTP、Cisco CTIManager など) に対して、アラームを設定できます。アラーム インターフェイスを設定する際には、アラーム情報を複数の宛先に送信することと、それぞれの宛先に固有のアラーム イベント レベル (Debug から Emergency まで) を指定することができます。アラームの収集および表示には、Real-Time Monitoring Tool を使用します。

サービスがアラームを発行すると、アラーム インターフェイスはアラームを選択されたモニタ (たとえば SDI トレースや Cisco RIS Data Collector) に送信します。モニタは、アラームを転送するか、または、最終的な宛先 (ログ ファイルなど) に書き込みます。

この章は、次の項で構成されています。

- [サービスに対するアラームの設定または更新 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム宛先の設定 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム イベント レベルの設定 \(P.3-4\)](#)

サービスに対するアラームの設定または更新

ここでは、Cisco Unified CallManager サービスに対してアラームを設定する方法を説明します。



(注) SNMP トラップおよびカタログの設定は、変更しないことをお勧めします。

標準のレジストリ エディタの使用方法の詳細については、OS のオンライン マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [Alarm] > [Configuration] の順に選択します。

[Alarm Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスから、アラームを設定する対象のサーバを選択します。

ステップ 3 [Service] ドロップダウン ボックスから、アラームを設定する対象のサービスを選択します。



(注) ドロップダウン リスト ボックスに、すべての (アクティブおよび非アクティブの) サービスが表示されます。

[Alarm Configuration] ウィンドウには、選択したサービスのアラーム モニタとイベント レベルのリストが表示されます。

ステップ 4 表 3-1 の説明に従って、使用するアラームの宛先のチェックボックス (1 つまたは複数) をオンにします。

ステップ 5 [Alarm Event Level] ドロップダウン リスト ボックスの下向き矢印をクリックします。

イベント レベルを示すリストが表示されます。

ステップ 6 表 3-2 の説明に従って、使用するアラーム イベント レベルをクリックします。

ステップ 7 選択したサービスの現在の設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、[Apply to All Nodes] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [Save] ボタンをクリックして、設定を保存します。



(注) デフォルトを設定するには、[Set Default] ボタンをクリックした後で、[Save] をクリックします。

追加情報

P.3-4 の「関連項目」を参照してください。

アラーム宛先の設定

表 3-1 では、アラーム宛先の設定値について説明します。

表 3-1 アラームの宛先

名前	宛先の説明
Enable Alarm for Local Syslogs	<p>SysLog Viewer。Cisco Unified CallManager のエラーは SysLog Viewer 内のアプリケーション ログに記録され、アラームの説明と推奨の対処法が提供されます。SysLog Viewer には、Serviceability Real-Time Monitoring Tool からアクセスします。</p> <p>SysLog Viewer でログを表示する方法については、P.11-1 の「RTMT SysLog Viewer の使用」を参照してください。</p>
Enable Alarm for Remote Syslogs	<p>Syslog ファイル。Syslog メッセージを Syslog サーバに格納し、Syslog サーバ名を指定するには、このチェックボックスをオンにします。この宛先を使用可能にして、サーバ名を指定しない場合、Cisco Unified CallManager は Syslog メッセージを送信しません。</p> <p> (注) [Server] フィールドに、Syslog メッセージの受信に使用するリモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。Cisco Unified CallManager ノードは別のサーバからの Syslog メッセージを受け入れないため、Cisco Unified CallManager ノードを宛先として指定しないでください。たとえば、CiscoWorks 2000 にアラームを送信する場合は、CiscoWorks 2000 サーバ名を指定します。</p>
Enable Alarm for SDI Trace	<p>SDI トレース ライブラリ。</p> <p>アラームを SDI トレース ログ ファイルに記録するには、このチェックボックスをオンにし、選択したサービスの [Trace Configuration] ウィンドウで [Trace On] チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Trace Configuration] ウィンドウの使用方法的詳細については、P.5-2 の「トレース パラメータの設定」を参照してください。</p>
Enable Alarm for SDL Trace	<p>SDL トレース ライブラリ。この宛先は、Cisco CallManager サービスと CTIManager サービスにだけ適用されます。Trace SDL 設定を使用してこのアラーム宛先を設定します。</p>

追加情報

P.3-4 の「関連項目」を参照してください。

アラーム イベントレベルの設定

表 3-2 では、アラーム イベントレベルの設定値について説明します。

表 3-2 アラーム イベントレベル

名前	説明
Emergency	このレベルは、システムが使用不能であることを示します。
Alert	このレベルは、ただちに処置が必要であることを示します。
Critical	このレベルは、クリティカル条件が検出されたことを示します。
Error	このレベルは、エラー状況が存在することを示します。
Warning	このレベルは、警告状況が検出されたことを示します。
Notice	このレベルは、正常ではあるが重要な状況を示します。
Informational	このレベルは、情報メッセージだけを示します。
Debug	このレベルは、シスコ TAC のエンジニアがデバッグに使用するための詳細なイベント情報を示します。

追加情報

P.3-4 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- サービスに対するアラームの設定または更新 (P.3-2)
- アラーム宛先の設定 (P.3-3)
- アラーム イベントレベルの設定 (P.3-4)
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』の「アラーム」